

第4回 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会会議録

- 1 開催日時 令和7年3月26日（水）午後6時30分～午後8時15分
- 2 開催場所 高津市民館 第4会議室
- 3 出席者 委員 齋藤委員、和委員、小長井委員、藤田委員、中山委員、望月委員、  
原田委員（松田委員代理）、黒田委員、岩井沢委員、黒田委員  
事務局 小澤学校教育部長、小竹健康教育課長、末木健康教育課担当課長、  
里見健康教育課指導主事、富山健康教育課担当係長、  
鈴木健康教育課職員  
オブザーバー 荻田市民文化局市民スポーツ室担当課長
- 4 次第 1 開会  
2 挨拶  
3 内容  
(1) 前回までの振り返り（公開）  
(2) 部活動をめぐる国や他政令市の動向（公開）  
(3) 本市の今年度の取組（公開）  
(4) これからの川崎市の部活動の方向性（公開）  
(5) その他（公開）
- 5 傍聴者 0人
- 6 内容

小澤学校教育部長	<挨拶>
事務局	<配布資料の確認>  <資料1及び資料2に基づき説明>
中山委員	毎年1回、政令指定都市のスポーツ協会が集まり情報交換しており、各都市でも段々具体的な動きが出てきたと感じるが、一方で他の先行事例を見ながら慎重に検討しているところもある。ただ、そろそろしっかり取り組んでいかなければならないという流れになっていると感じる。スポーツ協会の関係団体に伺うと、全国規模の会社が強く、地域のスポーツ団体としてはなかなか太刀打ちできないという話も聞くので、地域展開ということであれば、より地域のスポーツ資源を活用して末永くできる方法がないかと考えている。
望月委員	昨年、大都市による会議を行ったが、この辺の話題というのは、どこの都市も出ていなかった。実態としてはあまりないのかなと。ただ、文化部の事例を見てみると、吹奏楽は色々な都市で事例があり、様々な主体が連携して行っているというのは把握しているが、それ以外には、演劇やコーラスなどの事例はあるが、実際、文化団体が地域の中で主体的に学校の部活動に関わっているというのは具体的などころは把握していない。

小長井委員	私は教育の現場に関わる者ではないので、関連する情報は持ち合わせていないが、先日の朝日新聞の記事で、静岡県掛川市で全面的に部活動を廃止して完全に地域移行するというのは見たが、どこの都市か忘れたが、地域移行を諦めたところもあるというのは聞いている。全国で多様な動きが進んでいるというのは把握している。
事務局	＜資料3（モニタ画面）に基づき説明＞
原田委員	<p>資料中の「休日の部活動の地域移行」の中で、演劇部と吹奏楽部のことが載っているが、部活動自体が生徒たちの主体的なものであってほしいというのが一番の願いである。</p> <p>文化部は、同じ仲間と一緒に活動して、成果が出たら自分に返ってくること、活動が楽しいということが主になっていると思う。西中原中の演劇部の事例について、プロの俳優が指導するのは、子どもたちにとってもものすごく刺激になるし、意欲がわくということではとてもいいことだと思う。</p> <p>顧問が色々なことを調べて指導したり、顧問自身が演劇部経験者だったりという場合もあるかもしれないが、現役の俳優が色々なことを教えてくれるのはものすごい刺激になると思う。</p> <p>今、川崎市でも演劇部については、創作劇発表会のときに、脚本家の方に来てもらい、その中の指導・講評の中で「こういうふう書いてみればいいんだよ」とか指導されたり、子どもと意見交換を行う時間がある。また、そのほかにもプロの方から2日間指導を受ける機会を設けており、他校との関わりもできて楽しい時間になっている。</p> <p>神奈川県でも講習会を1日行っているが、人数の関係で全員の参加が難しい場合もあるので、今回のようにいつもの仲間と指導を受けられるのはとてもいいことだと思う。</p> <p>ただ、現段階では、それらに参加するために顧問が調整しないといけないため、顧問の働き方改革という点では課題はあるが、子どもたちの意欲向上にはつながっていくと思う。</p> <p>また、吹奏楽部は、7月のコンクールに向けて頑張っているが、コンクールの後も年の近い大学生など目標になる方が学校に来て指導してくれるのは子どもたちの意欲向上にもなるし、顧問の専門楽器も様々なので、大学生などが個別の楽器のアドバイスをしてくれるのはすごく助かると思う。そういったことを考えると、調整するというのは教員の役割として入ってきて大変だが、子どもたちのためにはなっていると思う。</p> <p>また、演劇部や吹奏楽部は比較的多くの学校にあるが、文化部の中にはその学校独自の部活動もあり、そういったものは個別的な指導が難しい場合が、例えば美術部は美術大学と連携がとれると、ちょっとしたアドバイスでうまくなるのかなと思う。</p>
田中委員	<p>西中原中の演劇部については、4回指導が行われ、そのうちの1回は他校との合同練習の中で行った。ただ、回数がたった4回というのがもったいなかった。もっと早く業者が決まれば、より回数ができたので、早い段階で業者との契約ができればよかったと思う。</p> <p>また、去年度と今年度とで違う業者になり指導者が変わったのが残念だった。やはり、子どもたちと指導者との信頼関係が大切で、信頼が高ま</p>

	<p>ることで、学校としても土日はこの方に指導を託そうというようになるので、今年度の4回の指導ではそこまでは難しかった。</p> <p>また、運動部もなかなか指導を開始できなかったのが課題で、指導回数が少なく生徒との信頼関係が築けなかった例がある一方で、早くから指導を開始して信頼関係を築いた学校もあったと聞いているので、回数を重ねられれば信頼関係が生まれると思う。</p> <p>引率については、話が非常に進んで、関係団体の方にも御理解をいただいたので、来年度から始めていきたいと思うが、やはり生徒の安全が第一なので、急に子供たちだけで行かせるようにするのではなく、徐々に進めていけたらよいと思う。学校から近くの場合への行き来から始めたり、少し遠いところは保護者が直接送っていただくとか、保護者の御協力を頂ける部分もあるかなと思う。また、逆に帰るときに迎えに来てもらえれば、それに合わせて帰る時間も決められる部分も出てくると思う。順番に対応できるように各家庭へ周知に努めてまいりたい。</p>
岩井沢委員	<p>引率については、今月頭の当協議会の会議でも健康教育課から御説明いただいたが、特に反対意見もなく、他の保護者も今まで過保護過ぎたねと話していた。中学生だから絶対に集団で行きなさいというわけではなく、高校生になれば普通に1人で行くことになるし、塾に1人で行っているということもあるので、今までが慎重過ぎたというところはある。ただ、その際に私が質問したのは、スマートフォンの所持が原則禁じられていることについては今後どうなるのかという点で、それは各校長の判断によると伺った。やはり、子どもと連絡は取り合いたいと思うところはあるので、いつ終わっていつ帰ってくるのかという心配はある。</p> <p>また、日が短い時期は5時になると真っ暗になるため、今、あの中学校にいらしいといった情報は、スマートフォンで連絡を行うことになるので、貴重品として顧問などが預かって、帰るときに返すというかたちになれば安心して送り出すことができるかと思う。</p>
事務局	<p>引率の見直しは、保護者の御協力がないと進められないため、心強い意見をいただき、ほっとしている。学校としても、いきなり始めるのではなく、生徒の安全を第一に考えて徐々に移行し、課題があれば来年度以降検討してより良いものにしていきたいと思っているので、引き続き御協力をお願いしたい。</p> <p>また、地域移行について、今年度は担い手の不足により担い手を決定するのに時間を要した。業者が見つからずに入札が成立しないといったことが生じ、演劇部では指導開始が遅くなってしまった。</p> <p>加えて、指導者が毎年変わると生徒との人間関係の構築に時間を要するという点についても、地域移行をしていく上では留意しなければならないと思っている。</p> <p>本日の会議冒頭で中山委員から御発言いただいたが、担い手となる企業がまだ不足していると我々も感じているので、今後も情報収集やこれまでの地域移行の実践研究の結果を踏まえて検討していきたいと思っている。</p>
和委員	<p>質問というか提案になるが、ある研究で麻生区の方に調査を行った際、現役の俳優の方から、ぜひ地域の子どもたちなどに自分がやってきたことで貢献したいという話があった。また、高津区も結構芸能人が多いの</p>

<p>藤田委員</p>	<p>で、地域が限定されるかもしれないが、川崎市は人材の宝庫なので、国の事業で予算があるときは謝金を支払うことができるが、子どもたちの声で毎年指導者が変わるという課題もあるので、ボランティアに近いかたちで、プロ又はプロであった方で社会的な意識の高い方たちに道を作るような、そういう方たちの人材バンクを作って御一緒にいけるとよいと思った。</p> <p>先程、演劇部に関する話の中で「業者」という言葉が出てきたが、演劇の指導というのは業者から見積もりをもらって決まるようなものではない。特殊性があるものなので本来は随意契約で行うような話だと思う。ワークショップなどができる人材を派遣する会社というのはそもそもほとんどなく、私は聞いたことがない。専門性を求めるとなると、劇団やプロのフリーの俳優などになる。ただ、俳優のトレーニングを受けていなくとも日本では自分は俳優だと名乗れば誰でもなれてしまうため、発声の勉強をしてなくても舞台に出たことがなくても俳優はたくさんいる。だから、何を子どもたちが求めているかで、指導者選びも全く違ってくる。例えば、声の出し方や歌を習いたいならミュージカルの人がいいとか、発声を教えるスキルがある人がよいとか。</p> <p>吹奏楽のように吹き方から始めるとかいうものはなく、全く教え方が異なるため、セオリーがないから演劇は面白いので、その辺りは非常に難しいと思う。</p> <p>例えば、チームとして、結束して仲良くやる、演劇部の仲間を作っていくというのであれば、それに特化したワークショップができる人を呼ぶべきだし、演技がうまくなりたいのであれば、そういうことをきちんとやっている劇団から教えることができる俳優を手配すればいいし、色々ニーズが異なるので有名な人を指導者にもってくればよいというものではない。</p> <p>ちなみに、岐阜県可児市では、文化創造センターというのがあり、文学座と契約して一緒に作品を作るだけでなく、可児市のワークショップも共に行い、そこで引きこもりなど社会的な問題を子どもたちと一緒に解消していくワークショップなどを行っており、非常に評価されている。文学座は在籍人数も歴史もあるし、様々なスキルを持っている方がいて、そういう団体は本当に少ない。</p> <p>可児市は川崎市より人口が少ないが、そこでもみんなに馴染んでいって現在の関係性を築くのに10年かかった。こういうことを劇場がやっていて、こういう人たちを呼べば来てくれるというのがわかるのに10年かかったので、川崎市ではなかなか難しいとは思う。まず、南部と北部とで互いに何かやってもあまり行き来もしないので、知ってもらえないというのがあると思う。そういうのを考えるとものすごく時間がかかると思うし、そういうことをやってくれる業者は多分ない。だから、そういう訓練を受けてワークショップをやってきたというスキルで子どもたちに興味を持ってくれる人とつながるのはすごくよいと思う。ある条件がないと、ただ指導者が個人的に伝授しているだけになってしまう。</p> <p>先週、川崎市高等学校春季演劇フェスティバル（春フェス）というのをを行い、そこでは必ず中学校を1校招待しており、今回は向丘中学校だったが、生徒たちは初めて劇場でやるということで緊張してテンションが上がっていたが、とても喜んでくれた。</p>
-------------	---

	<p>その際に教員と話したのは、文化系の活動で忘れられがちなのが、演劇の場合だと出演するだけが部活ではなくて、スタッフもやる。高校だと台本も書くし、照明や音響とかもやるので、技術のワークショップをできないかという話が出た。中学校だと視聴覚教室や小さい教室を使ったりするが、そのときにこれだけでも効果が出るとか、こういうことだけでも音が出るとかを教えられれば、出演だけではなくて、それを支えるスタッフをやるのも楽しいと思ってもらえるような仕組みづくりができないかなと思っている。</p> <p>ワークショップに参加しなくても学校での部活動が楽しくなるとか、発表会が良くなるとか、書くとか表現することだけでなく、スタッフワークも含めて部活動であるということも含めて指導者は考えていかないと、ただ主役をやれるのがいいよねという活動になってしまう。</p>
事務局	<p>委員から貴重な御意見をいただいたが、演劇だけでなく、音楽やスポーツも本市は人材が豊富であることも認識しているが、随意契約というのが、大きな壁だと思っているので、今後の地域移行において、どう解決していくかということについては引き続き検討してまいりたい。</p>
事務局	<p>この文化部の実証研究を始める際、吹奏楽部に加えてどの部活を対象にするか検討したときに、一定の学校にある部活動で土日も活動していて、吹奏楽部の合奏と同じように、演者やスタッフなど様々な役割を持った人が1つにまとまって行うのでよいのではと教えていただき決めた経過がある。</p> <p>演劇部は休日に活動を行っており、様々な子どもたちの活動が1つのまとまりで行い、そして、コンクール等で発表するという吹奏楽との共通点から選んだという理由がある。本市には、まだ様々な地域資源があると思う。確かに業者の決め方の悩みがあるが、一方で地域資源をどれだけ活用していくかは、大事な視点だと思うので、委員の御意見を参考にさせていただきたい。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局より資料4に基づき説明＞</p>
事務局	<p>資料の中にある「STEP2」の学校での話し合いについて、どのようなかたちで行われたのか、実際の映像を流しますので御覧ください。</p> <p style="text-align: center;">＜事務局より学校での対話の映像を放映＞</p>
中山委員	<p>「STEP2」では、各校でそれぞれ統一的な見解というのはまとまるものなのか。</p>
事務局	<p>各校での意見交換では意見を1つにまとめず、色々な立場の生徒から様々な意見を集めて、お互いにそれらの意見をどう思うか、感じるかを話し合う場としている。</p>
中山委員	<p>様々な考えがあると思うが、52校の代表が集まる際は、各校の代表者はどのような意見を持ちよるのか。</p>

事務局	<p>現在考えているのは、自校ではこういう意見があるというのとはもちながら、52校の意見をまとめたものを、その場に集まった代表者で共有して対話を行い、その中から生み出されるものを期待するものである。</p>
田中委員	<p>「STEP2」については、校長会でも、生徒が行うものなのでこれは教育だということで、目標があつて、子どもたちがこういうふうに話し合うことで、どう成長するかとか、他者との意見交換によって現状を確認するとか、そういうことがないと子どもたちも何のためにやるのかと思ってしまうので、それらに留意して仕組みを作った。</p> <p>そして、教育委員会には、学校や個人、部活など条件が違うため、この話し合いでは意見を集約しないで、意見をまとめずにそのまま吸い上げてほしいとお願いした。</p> <p>ただ、学校の代表として参加する際は、色々な意見があるということを知った生徒が集まり、他の学校はどうなのかとか、他校ではサッカー部が5人しかいなくてできないんだ…とか、自校の意見を把握した上で、他校の意見を知る場になるよう教育委員会で検討してもらえればと思っている。</p>
事務局	<p>中学校の中でも部活動のカラーはそれぞれ違うので、まとめるというよりも、お互いを知ることによって何か見いだせるのではないかなと思う。もちろん、すべての学校に当てはめられるものが出てくるとは限らないが、そこで見えてきたもので何か子どもたちが自分事と捉えてできる新しい部活動のかたちが見えてくればと思う。</p>
中山委員	<p>期待値が大きいなと思う。</p>
田中委員	<p>そういうところに川崎らしさがあると思う。児童が増えて新しく学校ができるなど全国の流れとは異なる部分もあるので、他都市とは違う取り組みが必要なのではないかなと思う。その点は、教員にも悩ましいところではあるが、その着地点を子どもたちと一緒に考えていけたらよいと思う。現状を知りながら、子どもたちにもしっかり考えてもらえたらよいと思う。</p> <p>ただ、少し気になるのは、子どもがそう言ったからという理由だけで部活動の在り方を決めるのはおかしいと思う。子どもたちの意見をベースにしながらも、部活動の在り方の指針を策定する段階では、委員の方にも見ていただきながら進めていけたらと思う。</p>
黒田委員	<p>感動している。とても良い取り組みだと思う。この取組自体が部活動であるという感じがする。つまり、自分たちで考えて良くしていこうとするためにはどうすればよいか、自分事や自分たち事になって、どうしていけばよいか考えるようになることが問題意識を持つことになる。クラブ活動は子どもたち主体の活動であり、子どもたち自身が自分たちの活動に対して問題意識を持って自己改善していくということは、先生方の働き方にも関わってくることになる。</p> <p>何でも先生がやらなくてはいけないから大変になってしまうので、本来は、部活動は自主活動で子どもたちが主体なので、本当に大事なことをまた改めて、先生も含めて確認していくことなのではないかなと思う。</p>

<p>齋藤委員</p>	<p>だから、すごく新しい取組みだけでも、内容としては、本来的に大事にしているものは何なのかというのを私たち大人も含めて、みんなで確認していくことになるのではないかと思います。</p> <p>だから、川崎らしさでもあり、かつ、クラブ活動が学校教育活動に含まれていることの本質的な意味をもう1回確認していくということになると思う。本当にいい活動ではないかと思う。期待しかない。</p> <p>先程説明された演劇部と吹奏楽部の取組は、一つのモデルだと思う。土日に指導を受けたことを自宅や学校で主体的に取り組むというスタイル、7日間ずっと先生が付いて指導を受けるというのではなく、クリニックというか、そこで課題を見つけて、みんなで取り組んでいくというのは一つのモデルだと思った。</p> <p>また、学校での意見交換の取組は、私も感動した。あれが部活であって、先生が少しファシリテートしながら、生徒たちが主体的にやっていくということで、そこに参加した生徒たちはうまく主体的に部活をやっているのではないかと思います。</p> <p>あと、これは分析しなければならないが、生徒たちは学校の先生に部活動を指導してもらいたいのか、あるいはスポーツあるいは文化系の専門の先生に指導してもらいたいのかという、その違いはあると思う。学校の先生が専門的なものを持っていれば、うまく生徒をファシリテートしていけば素晴らしいと思うが、例えば、部活動でバスケットをやりたいといっても顧問に充てられた人すべてがそれを指導するのは難しいと思う。そうになると、外部のリソースを使うか、先生たちが専門的にやっていくしかなくなる。その部分は確認した方がいいと思う。部活の指導について、専門的に教えてもらいたいとなったときに、今の教員だけで行うのは絶対限界があるので、それに対して市がどのようにサポートしていくか、それから地域の指導者人材を評価・整理していくことが必要なのではないかと思った。</p> <p>指導者の評価・整理という点について、海外の事例で1つのモデルになるのは、例えば、ニュージーランドでは、レクリエーションレベルで楽しく仲間とやりたい人と、トップに上がっていく人と二分化している。二分化するのは当たり前で、やっている人がうまくなっていけばそうなるわけで、本人が2つに分かれるわけではない。本人自体は最初は楽しんでやっているが、より専門的になっていくということで、これをパスウェイと呼んでいる。このパスウェイで、最初にレクリエーション的にやることをきちんと指導する、基礎を教える指導者もいるし、エリートを作る指導者もいて、それぞれ別々である。それを部活の中で1人の先生がやるのは難しい話なので、さっき整理という話をしたが、地域のスポーツの指導者を評価して整理していく必要があると思う。</p> <p>ニュージーランドの例だと、ウェブサイトでは私はいくつかのことをコーチするという紹介があり、コーチを選ぶ仕組みになっており、それもずっと付いて教えるのではなく、スポット的に指導するようになっている。その辺を整理していくと、今お話いただいた、中学生のそれぞれの意見にどう対応するかを整理できれば、どの生徒にとっても、楽しくやれるような部活が作れると思う。市のサポートが必要になってくるとは思うが、本当に勉強になった。</p>
-------------	---

中山委員	<p>おそらく楽しくやりたい生徒もかなりいるだろうし、競技を突き詰めてやっていきたい生徒もいると思う。そういう人たちが同じ意見になることはないと思うので、様々な方に対応できる仕組みを考えることが必要になっていくと思う。</p> <p>そのときに、地域の中に競技に特化した指導者もいるので、そういった外部のリソースを使った仕組みが最終的に必要になると思う。学校で1つの意見にまとまるということはあるまいと思う。</p>
岩井沢委員	<p>先日、PTAとして全区が集まり意見交流会を初めて行ったが、やってみて良かったので、そういうのを生徒たちも行うのは良い取り組みだと思うが、それは52人だけの意見にならないようにしてほしいと思う。そこで出た意見を必ず学校に持ち帰って、下におろしていくのが大切だと思うので、それは中学生には荷が重いかもかもしれないが、そこは皆さんでサポートしてもらい、自分はこういうところに参加して色々な中学校の意見を聴いてきたということをもみんなに広めてほしい。意見を出すのが難しい子はそのような場に出ることは難しく、結局はそういう場に出ることが得意な子が出席することになるので、出席した子は聴いてきたことを学校内に周知するというのを、うまくやっていただきたいと思う。</p> <p>また、生徒たちが、部活動が親御さんの支えで行うことができていることをわかってくれるかなと思うところがある。</p> <p>文科省の部活動の会議で、確か遠征費用の話が出ていたかと思うが、遠征にかかる交通費とかは保護者の負担になり、強い部活は結構かかるという話も伺う。そういった話は生徒からの意見では出てこないと思うが、裏でバックアップしてもらっているよねというところ、ユニフォームや道具とか、どうしてみんな安心して部活できているのかなというところも保護者としては意見として出ればいいかなと思う。</p>
和委員	<p>お金の問題は、専門性の高い指導者を求める場合に必ずつきまとう問題である。国からの補助事業も永遠には続かないとなると、地域展開という言葉になったのは、それぞれの地域にある特徴のある色々な資源を使い、みんなで力を持ち寄って行うということが大事なので、ぜひお金の部分は真剣に考えると、実現可能なものになると思う。中学生からその点について意見が出てくればすごいが、その点については、大人で考えることができればと思う。</p>
事務局	<p>岩井沢委員が仰られたように、各学校の意見は、まずは各校で共有していただきたいし、今後行う全体の会議においても、他校の意見を持ち帰ってどうだったかというのは一つの目標であるので、それが生かせるような進め方を考えていきたいと思っている。</p> <p>斎藤委員からいただいた、部活動に何を求めているのかということに点については、生徒からいくつか同じような意見があり、先生に教えてもらいたいとか、もっと専門的な指導者に習いたいといった意見がある。そういう意味でいうと、1つにまとめるのはかなり難しいと思うが、当初の目的を大事にしながら来年度の意見交換会を実施していきたいと思う。</p>

事務局	<p>1つ1つの御意見が川崎らしさだなとヒントをいただいたと思っている。費用負担は重い課題だが、国からも受益者負担と公費負担の適切なバランスを検討することが求められているので、それは重点課題としていく。今回、意見交換会の取組について、皆様から評価していただき、これが川崎の部活の新しいルールを作るための1つのツールとして、子どもの声を大事にしながら、そのエッセンスをどのように指針に反映させていくのが我々の役目と考えているので、今後もこの会議で御意見をいただきたい。</p>
オブザーバー	<p>総合型スポーツクラブ関係を担当している部署でして、本日お話を聞いて感じてしたのは、生徒たちが、この部活をやりたいからこの学校に行きたいとか、専門性を極めるためにこの学校に行きたいとか生徒の視点で見える化できるとよいと思いながら聞いていた。</p>
小澤学校教育部長	<p>部活動のアンケートの進め方については、そもそも当事者である子どもたちの意見をまず聞いて大事にしていこうということから始まっている。当事者の意見や考え方を聞かないと進められないよねというところから、このようなかたちで進めてきた。</p> <p>実施に当たっては、アンケートの途中でバイアスをかけるのは良くないという意見もあり、全52校の中で、大規模校や小規模校、地域の特性などにより色々な意見が出てくると思うが、まずは聴くところから始めて、それを集約するのは意見が膨大であればそれなりの難しさがあると思うが、川崎市としては、まずはやってみようというところである。</p> <p>費用の面などは生徒からの意見はなかなか出てこないかもしれないが、検討が必要だし、スキルを求める人と求めない人にどう関わっていくかなども今後の検討課題である。色々なハードルがあるが、議論を深めていく中で、大人が入り込んでしまうと、元々の当事者の子どもたちの意見を聴くという前提を欠いてしまうので、なるべく大人が入らずに、まずは子どもたちにどうなのかを聞いてみて、あとは意見をどう集約するかという課題にチャレンジしていきたいと思う。</p> <p>(会議終了)</p>